

# ピリポとナタナエルの召命

ヨハネ福音書1:43-51

【新改訳2017】

- 1:43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされた。そして、ピリポを見つけて、「わたしに従って来なさい」と言われた。
- 1:44 彼はベツサイダの人で、アンデレやペテロと同じ町の出身であった。
- 1:45 ピリポはナタナエルを見つけて言った。「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。」
- 1:46 ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何か良いものが出るだろうか。」ピリポは言った。「来て、見なさい。」
- 1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた。「見なさい。まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません。」
- 1:48 ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じなのですか。」イエスは答えられた。「ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見ました。」
- 1:49 ナタナエルは答えた。「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」
- 1:50 イエスは答えられた。「あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったから信じるのですか。それよりも大きなことを、あなたは見ることになります。」
- 1:51 そして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るようになります。」

## 【祈りながら考えよう】

- (1) 人が主に会い、救いにあずかる方法は多様性があることを説明してください。
- (2) ナタナエルから反論されたピリポは、何と答えましたか。
- (3) 1章51節の御言葉によれば、主イエスはどのようなお方ですか。

## 【解説】

### (1) 救いに導かれる方法の多様性

《その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされた。そして、ピリポを見つけて、「わたしに従って来なさい」と言われた。彼はベツサイダの人で、アンデレやペテロと同じ町の出身であった》(43-44節)

その翌日とは4日目の出来事である。ここには、主イエスの弟子に加えられた、ピリポという名の人が登場する。彼は、アンデレとその仲間のように、バプテスマのヨハネの証言によって動かされたのではなかった。また、シモン・ペテロのように、兄弟の率直なことばによって引かれたのではなかった。彼は、主イエスご自身によって直接みもとに呼び寄せられた。その召命に、人的媒介がなかった様子はない。しかしピリポは、その信仰と生活の面において、彼以前に弟子になった者たちと一致したのである。

彼らはみな、それぞれ異なった方法で導かれたが、同じ道に入り、同じ真理を受け入れ、同じ主に仕え、そしてついには、同じ安住の地にたどりついた。

今私たちの前に置かれているこの事実は、きわめて重要なものである。これは、各時代にわたって、あらゆる民族の者から構成されている神の民すべての者の歴史を説明する助けとなる。魂の救いにかかわる働きは、様々なものがある。

すべての真のキリスト者は、1つの御霊によって導かれ、ひとりの



方の血によって洗われ、1人の主に仕え、1つの真理を信じ、1つの共通のルールによって歩む。しかし、すべての者が、同じ方法で回心させられるわけではない。またすべての者が、同じ経験をするのではない。

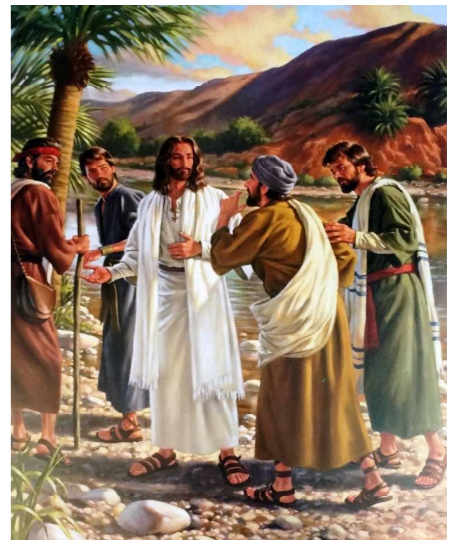
罪人の回心の際に、聖霊は、主権者として働かれる。聖霊は、御旨のままに、1人1人を各個に召し出される。

この点を注意深く想起するならば、私たちは、多くの困難から救われる。私たちは、他の信者の体験を基準として自分の体験を評価することのないよう注意すべきである。

また他の信者が自分と同じ方法で導かれなかったからといって、その人の受けている恵みまでも否定することがないよう心したい。

誰でも、神の真の恵みを受けているかどうかだけが問われる。これだけが、問題である。

――罪を悔いているか。信じているか。きよい生活をしているか。――もしこれらの質問に十分に答えられるならば、安心してよいであろう。そして、最終的に正しい道に導かれたのであるならば、その者がどのような導かれ方をしたとしても、取り立てて論ずることはない。



### (2) 旧約聖書は、キリストを指し示している

《ピリポはナタナエルを見つけて言った。「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。》(45節)

ピリポは、ナタナエルにキリストを説明した時、「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました」と言ったのである。

キリストは、旧約聖書の総計であり、本質である。アダム、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ――それぞれの時代に与えられた初期の約束は、みなキリストを指していた。

シナイ山で制定された儀式的礼拝におけるすべての犠牲は、みなキリストを指していた。大祭司はみな、キリストの型であり、幕屋のすべての部分は、キリストの影であり、イスラエルの士師や解放者は、みなキリストの表象であった。

彼は、神がお送りになると約束しておられた、モーセのような「預言者」であった。また、ダビデの子孫であると同時に、ダビデの主となるために来た「ダビデの家の王」でもあった。

彼はまた処女マリアの子、イザヤによって預言された子羊、エレミヤによって言われていた正しい枝、エゼキエルによって予見されていた真の牧者、マラキによって約束されていた契約の使者、そしてダニエルいわく

「自分のゆえにはではないが断たれなければならないメシア（油注がれた者）」(ダニエル9:26)であった。私たちが旧約聖書をよく読めば読むほど、キリストについての証言は明瞭になってくる。昔、御霊の感動を受けた著者たちが受けた光は、福音書の光に比べるならば、せいぜい薄明かりとしか言いようのないものであった。

しかし、彼らすべてがはるかかなたに見、その目をこらして見つめていた「来たるべき方」は、全く同一の人物であった。御霊が、彼らのうちにおいて、キリストを証ししていたのである。

私たちは、このような言及につまずくだろうか。この方の名前が旧約聖書には出てこないという理由で、旧約聖書の中にキリストを認めるのを困難に感じるかもしれない。

しかし、その責任は、すべて私たちにある。悪いのは、私たちの霊的視力であって、聖書ではない。私たち

《旧約聖書 (39巻)》

創世記 出エジプト記 民数記 申命記	モーセ五書 天地創造からモーセの死までの神の民の物語と律法。
ヨシヤ書 サムエル記 I サムエル記 II 列王記 I 列王記 II 歴代誌 I 歴代誌 II エズラ記 ネヘミヤ記 エステル記	歴史書 カナン侵入から捕囚の中頃までの、イスラエル民族の預言的歴史。
ヨナ書 詩篇 箴言 伝道者の書 雅歌	詩と知恵文学 古代イスラエルの宗教文化が生み出した特定グループの文学。
イザヤ書 エレミヤ書 哀歌 エゼキエル書 ダニエル書 ホセ書 ヨナ書 アモス書 ヨハナ書 ヨナ書 ミカ書 ナホム書 ハバク書 ゼファニヤ書 セラフイム書 ヘザキヤ書 マラキ書	預言書 イスラエル民族の墮落・捕囚・帰還の時代に発せられた警告。

《その聖書が、わたしについて証言しているのです》

の理解力、悟りの目は、もっと明らかにされる必要がある。

もっと謙虚になり、子どものような素直な心をもって祈ろうではないか。「モーセと預言者たち」の書を、再び手に取って学ぼう。

私たちの目が、そこに、キリストをまだ認めることができなかつたとしても、キリストはそこにいる。

「その聖書が、わたしについて証言しているのです」(ヨハネ5:39)という、旧約聖書についての主のおことばに、心から賛同できる者となろう。

### (3) ピリポがナタナエルに与えた良い助言

《ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何か良いものが出るだろうか。」

ピリポは言った。「来て、見なさい。」(46節)

ピリポは、発見したばかりの喜びをだれか他の人と分かち合いたい、と望んだ。出かけて行ったピリポは「ナタナエルを見つけた」。

ナタナエルの頭は、ピリポが語った救い主についての疑念で一杯であった。ナタナエルは、

「ナザレから何か良いものが出るだろうか」

と言った。

それに対してピリポは何と答えたか。彼は、ただ

「来て、見なさい」

と言っただけである。ピリポのこのことばよりも賢明な助言を、考えることができない。

ピリポが、もし、ナタナエルの不信仰をとがめたのであったら、恐らくナタナエルを追い返し、ただ彼を怒らせることに終わったであろう。

ピリポが、もし、ナタナエルを理屈で説き伏せたとしたならば、ナタナエルに罪を自覚させることはできなかったであろうし、また彼の疑念をいっそう強くさせることになったであろう。

しかし、ピリポは、ナタナエルに自分で確かめさせようとして彼を招くことによって、自分が主張している真理に対して、絶対の自信を持っていることを示した。

また、自分の主張していることを、すぐにでも検証してもらいたいとの意欲を示した。結果は、ピリポのことばが賢明であったことを示している。ナタナエルがキリストを知ることができたのは、「来て、見なさい」という率直な招きのことばがあったからこそであった。

私たちが自分を真のキリスト者と称するならば、ピリポがナタナエルにしたように、魂のことについて、大胆に未信者と語り合おう。

キリスト信仰の敵は、自分たちの知りもしないことを、一方的に悪く言っている。彼らは、自分たちが何を言っているかも、また、何について断言しているのかも、理解していない。

人に対するピリポの態度は、良い結果をもたらす1つの重要な方法であることは確かである。理屈や議論によって心が動かされる者はわずかしかない。

人の魂に最もよい効果を与える者は、「私は救い主に会った。来て、見なさい」と友人に話しかける単純な信者である場合が多い。

### (4) イエスが語られたナタナエルの人格、特徴

《イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた。

「見なさい。まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません。」(47節)

ナタナエルは、非常に小さな群れの一員であった。シメオンやアンナ、その他の敬虔なユダヤ人と同様に、主のお働きが開始した時に、彼は信仰によって生き、約束の贖い主を祈りつつ待ち望んでいた。

彼は、神の恵みだけが与えることのできる正直な心、偽りのない心を持っていた。彼の知識は、たいしたものではなかつたであろう。彼の霊的視力もぼんやりしていたと思う。

しかし、彼は、自分に与えられている光に従って生きる人であった。彼の洞察力は鋭くはなかつたが、彼の目は、誠実で、ひたむきさを示していた。霊的判断力に優れてはいなかつたが、偽りのないものであった。

彼は、パリサイ人やサドカイ人をものともせず、また当時のすみすみにまで普及していた流行宗教(当時のユダヤ教)をもものともせず、聖書の中に見出したものを、しっかりと把握していた。

彼は、たったひとりで立ち続けてきた誠実な旧約の信者であった。ここに、主の、特別な称賛の秘密がある。

主は、ナタナエルをアブラハムの真の子であると宣言された。形式においてだけでなく、内面的に霊において割礼を受けたユダヤ人であり、肉においてヤコブの子と同様に、心においてイスラエル人であった。

私たちもまた、ナタナエルと同じ霊を持つ者となれるよう祈ろう。誠実で偏見のない、真理が導くならどこにでも、真理に従って行こうという子どものような素直さ、御霊に導かれ、教えられることを喜ぶ単純な、心からの願望、今与えられている光を必ず用いて進もうという断固とした決意—これらは、きわめて価値のある財産である。

この心を持っている人は、暗闇の中にあっても、周辺がことごとく自分の魂にとって不利な中で生きなければならぬとしても、主イエスが決して天の御国への道を見失うことのないよう配慮して下さる。

「主は貧しい者を公義に導き、貧しい者にご自身の道を教えられます」(詩篇25:9)。

### (5) 父なる神と私たちを結びつける梯子

《ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じのですか。」イエスは答えられた。

「ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見ました。」ナタナエルは答えた。

「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」

イエスは答えられた。「あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったから信じるのですか。それよりも大きなことを、あなたは見るようになります。」

そして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。天が開けて、神の御使いたちが人の子のの上を上り下りするのを、あなたがたは見るようになります。」(48-51節)

ナタナエルは、見ず知らずの他人が、自分を以前からご存じであった、と話しかけられたことに驚いた。

「いちじくの木の下に」座っていた時には、だれにもその姿が見えないはず。彼の姿がそのような隠れていたのにもかかわらず、イエスは彼をご覧になっていたのである。

人間の視界からは完全に遮断されているのに、自分の姿を見ることのできた主イエスの力によって、ナタナエルは納得したのかもしれない。あるいは、何か超自然的な方法によって理解に至ったのかもしれない。いずれにせよ、ナタナエルは今や、イエスが「神の子」であり、「イスラエルの王」であることがわかった。



いちじくの下で瞑想していたナタナエル

主はご自分がメシヤであるという証拠をふたつ、ナタナエルに示された。ナタナエルの人となりを言い表されたこと、また、肉眼では見えないはずのナタナエルをご覧になっていたことである。ナタナエルにはこの二つの証拠で十分であった。彼は信じた。

しかし、主イエスは、「あなたはそれよりもさらに大きな証拠を見ることになる」と約束された。

主が「まことに、まことに」(文字通りには「アーメン、アーメン」と言って話し始められる時は、例外なく、極めて重要なことが話されようとする時である。ナタナエルはヤコブが見た夢について瞑想していたようである(創世記28:12)。

御使いが上り下りするその梯子は、天に通じる唯一の経路である主イエス・キリストを表している。

ナタナエルが見たのは主のお姿のほんの一端にすぎない。将来、主イエスが再臨されて、全地を統治する時、主を信じる民は、天が開かれ、天と地との間に交流が絶えることなく保たれるのを見ることになる。



天の梯子の夢を見るヤコブ